

【災害と感染症】



災害時の感染症 災害時の感染対策は「ここにあるもので、どこまでできるか」という発想で。

- ① 外傷後の感染症、特に破傷風予防に気をつける
- ② 多いのは一般感染症。かぜ、下痢症等に要注意
- ③ 予防接種がある感染症は、あらかじめ接種して予防

①被災直後は外傷対策：被災直後は外傷ケアが大切

- A) 傷はきれいな水で洗う： 水がない場合はできる限り衛生的に保つ
- B) 傷に異物が残っていないことを必ずチェック
- C) 深い傷は予防的な抗菌薬投与を
- D) 破傷風予防を適切に

破傷風に対するワクチン効果を維持するには

- 1968 年からの三種混合ワクチンの定期接種以前に生まれた人、
または、破傷風ワクチンを接種したことがない人
→最初の免疫ができていません。普段から破傷風ワクチン接種を接種しておきましょう
- 小児期に三種混合ワクチン+11 歳で二種混合ワクチンを接種した人
→30 歳以降は 10 年に 1 回の追加接種が必要です

②避難所での生活が長く続くと、次に問題になるのは狭い避難所での一般感染症

- A) 飛沫感染症 風邪、インフルエンザなど
 - B) 下痢症
 - C) 空気感染症 結核、麻疹、水痘など
 - D) 肺炎や尿路感染
- A) 飛沫感染症： 風邪、インフルエンザなど
- 水が潤沢にあれば「手洗い」、または「アルコール手指消毒」予防が大事！
 - 患者はマスクを付け、患者でない人とできるだけ距離をとる
 - インフルエンザワクチン接種
- B) 下痢症
- 水やトイレの不足から衛生面で下痢症予防は困難、トイレの後は「手洗い」または「アルコール手指消毒」励行。
 - 治療の原則は飲水。水が不足しているときは小児や高齢者は脱水になりやすく、死に至ることもある。
- ★下痢の時は 経口補水液 ORS(oral rehydration solution) があればそれを活用する。





手作り経口補水塩（ORS）の作り方

- ・ 1 リットルの水+小さじすり切り 6 杯の砂糖+小さじ 1/2 杯の塩を入れて混ぜる
小さじ（5cc）＝ペットボトルのフタ 1 杯
- ・ ペットボトルの清潔な水がなければ、煮沸した水でも可
- ・ あれば 100cc のオレンジジュースを混ぜると味がよくなり、カリウムの補充もできる

★水の飲み方

- ・ 「水を飲むから下痢をする」のではありません→下痢をしても飲んでください。
- ・ 「吐いていると、口からは飲めない」→吐き終わってから飲める時に飲んでください。

★小さなお子さんへの飲ませ方

- ・ スプーンやペットボトルのキャップで、少量ずつゆっくり飲ませて下さい。
- ・ 吐いてしまったら、10 分ほど待ってから繰り返し飲ませて下さい。
- ・ 下痢が止まったら終了です。

○吐物や便の処理

- ・ できるだけゴム手袋とマスクを着用の上処理する。ウイルスが空気中を飛散するため。

・ ノロウイルスを疑った場合の消毒薬の作り方

キッチンハイター等の塩素系消毒液 ペットボトルのキャップに半分+水 500ml の水

ゴム手袋を着用して汚れたところを拭く

C) 空気感染症： 結核、麻疹、水痘など

○同じ空間にいれば感染するので、患者さんをできるだけ隔離する

○麻疹、水痘にかかったことがない人は、あらかじめきちんと予防接種しておく

（生涯に 2 回ずつの予防接種歴があれば良い）

○水痘を発症した場合、その周りの人で、予防接種を受けていない人は 72 時間以内に予防接種を打てば予防効果がある。ただし、災害の混乱の中で予防接種を確保することが困難であると思われるので、災害前の接種のほうが肝要。

D) 肺炎や尿路感染→ もともと高齢者に多い感染症

災害時にも当然多く見られ、避難所の生活での衰弱なども発症に拍車をかけるかもしれません

肺炎、尿路感染症には抗菌薬が必要→受診しましょう

○肺炎を疑う時

38 度以上の熱 + 脈拍 100 回/分以上 + 呼吸数 20 回/分 以上

（3 つ全てを満たさなければ肺炎の可能性は低い:陰性的中率 96%）

高齢者は熱が出にくいので、ぐったりしていたら受診をする



【災害と感染症】



○尿路感染症を疑う時

- ・排尿時の痛み、尿の回数の増加、排尿後にも尿が残った感じがあれば受診

③ 予防接種がある感染症は、あらかじめ接種して予防

災害前に済ませておきたい予防接種

- ◇ 全年齢：破傷風（三種混合、二種混合）
インフルエンザ
- ◇ 10歳以下の小児：MR（麻疹・風疹）、おたふくかぜ、水痘、ヒブ、肺炎球菌、
A型肝炎、B型肝炎、ロタウイルス

～遺体の扱い～

残念ながら、災害では多数の死者が発生し、そして死体は異臭を放ちます。

しかし「異臭」には感染性はなく、それが故に「疫病」を恐れて慌てて土葬・火葬を行う必要はありません。遺体から感染することはきわめてまれですので、慌てずに市の対応を待ちましょう。

避難所での感染予防対策

- ①全員が石鹸と水で手を洗う（洗えないときは、アルコール手指消毒で代用）
特にトイレの後、給食配布の前には必ず手を洗う
- ②咳エチケットを励行
- ③食器やコップを共有しない
- ④櫛、カミソリ、歯ブラシ、タオルなど洗面用具も共有しない
- ⑤入浴回数は（できる限り）増やす
- ⑥衣類と寝具を洗うのに適切な洗濯設備を設置する

避難所で、スタッフに知らせたほうが良い症状

- ①38度以上の熱、②風邪症状（咳、鼻水、のどの痛み）、③インフルエンザ様症状（全身がだるい＋悪寒＋関節痛＋筋肉痛）④咳と血が混ざった痰がでる、⑤体にぶつぶつ（発疹）が出ている、⑥下痢便がでた、⑦吐いた、または吐き気がする、⑧おなかが痛く、便に血が混ざっている、⑨目が赤く、目やにが出ている、⑩傷があり、膿がでたり、腫れたり、赤くなったり、痛い、

大規模災害では、通常の保健衛生・医療システムは崩壊し、感染症のリスクが高まります。個人でできることは、避難経路確認や避難具の準備、衛生に関する知識を得ておく、そして予防接種を受けておくことです。

「備えあればうれいなし」、是非災害時の感染症予防対策をしておきましょう。

